

IGF 2023 に向けた国内 IGF 活動活発化チーム第 56 回会合 発言録

2024 年 11 月 18 日

【加藤】 皆さん、こんにちは。予定の時刻になりましたので、第 56 回目の活発化チームの会合を始めたいと思います。皆さん、よろしいでしょうか。聞こえておりますでしょうか。

【立石】 よろしく願います。

【加藤】 よろしく願います。今日も皆様、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

それでは、アジェンダに沿って進めさせていただきたいと思います。山崎さん、ちょっとアジェンダを動かしていただけますか。予定では日本政府からの御報告ということですが、今回、飯田様が御出張か何かで今日は御出席いただけないですが、どなたか総務省の方で御参加の方で、アップデートをいただくような情報、特に 12 月のサウジアラビアでの IGF 会議の関連の情報等、何かございますでしょうか。いかがですか。

【恩賀】 総務省の恩賀でございます。いつも大変お世話になっております。

【加藤】 お世話になっております。

【恩賀】 まず、サウジアラビアのほうは、今日、戦略局の飯田が欠席なので、私からは特にサウジアラビア関係はないんですけれども、トルコで開催された ICANN 会議にデータ通信課として行ってまいりましたので、その御報告を、またこの場でよろしければ、また少し後ほどでもお時間をいただきましてお話しさせていただくこともできますし、また別の場がよければそうさせていただきます。なお、来週に Internet Week でその点も含めて、パブリックな場でも少し御報告というか、お話もさせていただきます予定です。

ひとまず私からは以上でございます。

【加藤】 ありがとうございます。もしお許しいただければ、ICANN から IGF の関係者がまずたくさん行っているというのも我々承知しておりますのと、それから、ICANN の中でも IGF に関連しているのと似たような案件を議論する場がいつも得られたりしているのもあって、最近 ICANN で何が起きているかという観点でももちろん結構ですが、ここにいらっしゃる方々は別の場でも課長のお話を伺う機会もあるかとは思いますが、もしよろしければ、簡単に何か御報告いただければと思いますが、いかがでしょうか。

【恩賀】 分かりました。資料の準備はまだできていないんですけども……。

【加藤】 資料なしでも何でも、ポイントとしてお気づきのこととか、そういうことでも何でも結構ですけども。

【恩賀】 ありがとうございます。それではまず、特に私のデータ通信課のほうでメインでひとまず対応させていただいたところについて、ちょっと簡単に御紹介させていただきます。もともと御案内のとおり、漫画海賊版サイト対策関係で、特にこの ICANN の場で、特にレジストリ、レジストラの方々との連携をどうするかということで、2021 年 3 月の ICANN の 70 ですか、その頃から漫画海賊版サイト等の関係での問題提起等を ICANN の場で日本政府から GAC のほうでさせていただいてきました。

その流れで、今年の春に、4 月 5 日からだったと思いますけども、ICANN とレジストリとの契約、Registry Agreement と、ICANN とレジストラとの契約、Registrar Accreditation Agreement (RAA) が一部改正されました。

具体的にどんな改正があったかという、特に gTLD のこのレジストリ、レジストラは、DNS の不正利用、これ、具体的にはちょっとまだ狭いというか、いろんな御意見があって、現時点で共通認識として定義がされているのは、DNS 不正利用としても、マルウェアとかボットネットとかフィッシングとかファームウェアとか、あとは、スパムというのはこのマルウェア等の 4 つのタイプの配送手段として使われる場合に限りですけど、こういった DNS 不正利用について、報告があればそれについてしっかりと対応するという契約上の義務が新たに明記されるなどの改正が、この 4 月から行われました。

なので、今回、総務省としては、アメリカの NTIA と、あとは European Commission の DG-CONNECT と、これはここ最近 1 年間、共同でセッションをコリド、共同でリードさせていただいてきていまして、今回もそのセッションを設けさせていただきました。

そこで、まさしくこの 4 月から開始されたレジストリと ICANN との契約とレジストラと ICANN との契約、こちらの執行状況について、ICANN のコンプライアンス担当から 4 月から 10 月の半年間の執行状況のレポート、これは 11 月 8 日に ICANN から公表されていますけど、それについての御説明があったり、あとは、実際、ICANN の中でもそのレジストリとかレジストラの方々が集まる場があって、その方、その場の代表、実際に VeriSign の方と、あと、カナダの Tucows の方と、あとは CleanDNS という DNS 不正利用のある種コンサルサーサービスを提供している会社の方々と交えたパネルディスカッションの中でも、今回のこの契約の改正の歓迎ということですか、あとは実際に DNS 不正利用に関する報告の数が増えてきているということですか、あとは、実際、報告内容の質が向上

してきているとかいう御説明、御報告がありまして、引き続きのこういった情報共有とか、状況の注視というのが大事というパネルでの御議論、あとは、当然こういったレジストリ、レジストラのみならず、つまり ICANN コミュニティーの関係者のみならず、ICANN コミュニティーの外側にいらっしゃる、広い意味でのエコシステムといいますか、例えば CDN の事業者とか、ホスティング事業者の方とか、あるいはレジストラの方とか、いろいろな関係者による対応、これらとの連携というのも大事というような議論がありました。近々コミュニケという形でこの辺りが公表されると思いますので、御注視いただければと思います。

あと、もう 2 点だけ御紹介すると、同じようにドメイン名の登録データの正確性も議論がございまして、御案内とおり欧州の GDPR、いわゆる個人情報保護法制などに伴って、gTLD の登録情報が基本的に非開示になったことに対して、ICANN のほうでも、レジストラ、ドメインの登録データの開示制度、これ、RDRS といいますか、こちらのパイロットプロジェクトを去年の秋から 2 年間ということで、来年 11 月まで今やっております。しかし、ここで開示要請しても、出てくる情報に一部といいますか、かなりといいますか、結構不正確な情報が多いということがやはり問題提起されました。

こういった中で、我々のほうからも質問させていただいたり、あるいは、実際に個別に関係事業者にも ICANN 全体のどこかでお会いしましたけども、このレジストラから開示された登録情報に不正確なものが実際、かなりフェイクとは一見分かるものも含めていろいろあると。こういった正確性の担保について、レジストラとしても重要な関心事項として、責務と、RAA、先ほどの契約改正もありましたので、そういったことは認識しているということで、実際にこの開示された登録情報が不正確な場合には、御報告いただければ対応するといったことを、こういった表の、平場のディスカッション部分で御発言されるなどがございましたので、引き続きこの辺りは我々としても、日本の関係コミュニティの方とも連携しながら、フォローしていければなと思っております。

あと、もう 1 点、最後ですけど、新しい分野別の gTLD 新ラウンドが 2 年後の 2026 年 4 月に予定されているということで、それについて、途上国等の申請をサポートするプログラムとか、そういったあたりについて、手続の情報提供、あとは ICANN の関知しないプライベートオークションの禁止等の検討状況について、ICANN より御報告があったといったところでございます。また、この点もフォローしながら、皆様にも御紹介できればなと思っております。

ひとまず、データ通信課として正式に参加をした GAC という場での主な御議論というのは以上でございます。また別の場でも改めて、ちゃんとスライドで御紹介等をさせていただければと思っておりますが、ひとまず速報ということで御紹介させていただきます。

以上でございます。

【加藤】 恩賀課長、ありがとうございました。今の総務省様からの御報告に関して、何かコメント等、御質問等ありますでしょうか。ICANN に出られた方もたくさんこの場でもいらっしゃると思いますけれども、何かございますか。付け加えることとか、そういうことでも結構ですが、いかがでしょうか。

ICANN の状況については、近々また JPNIC さん中心に報告会やいろいろな場を設けていただくと伺っておりますので、またそういう場でも情報交換していただければと思います。

それから、この IGF の活発化会議でも、ICANN と共通の問題というのはいろいろ出てくると思いますが、まさに今の最初の漫画海賊版の話も、去年の京都でも実際セッション、日本からも取り上げて議論したというような経緯もありますので、そういう意味で IGF と密接に関係していると思いますので、こういう情報もお気づきの方があれば御共有いただければと思います。

山崎さん、よろしくお願いします。

【山崎】 JPNIC の山崎です。先ほど別の場でというお話がありましたので、情報共有ですけども、12 月 9 日月曜日にこの ICANN81 の国内での報告会を JPNIC としては開催する予定です。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。結構、午後ずっとやられるというふうに理解していますので、ぜひそういう場でもさらに詳しいことを共有いただければと思います。

ほか、御質問等ございますでしょうか。

【前村】 前村ですけども、よろしいでしょうか。

【加藤】 はい。よろしくお願いします。

【前村】 山崎から意見報告会の件、共有がありましたけども、付け加えておいたほうがいいなと思ったので付け加えるんですけども、かつてアジア太平洋地域の責任者であった Jia Rong Low が今、APNIC の CEO になりまして、その後を引き継ぐ Samiran Gupta というのが今のアジア太平洋地域の責任者なんですけども、Samiran が今回、ICANN 報告会に合わせて来日します。それで関係者のところを回るんですけども、ICANN 報告会の後にレセプションを、小さいものを準備しているんですけども、恐らく ICANN のほうから、ここにいる皆さんの多くの皆さんには招待が行くんじゃないかと思ってお

りますので、注意、ちょっと気をつけてメールボックスを見ていただいたらいいんじゃないかなと思います。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。また ICANN も新しいステップで、せっかくの機会ですから、そういう幹部の方々、おいでになる方々に会っていただくというのは貴重なことだと思いますので、よろしくお願いします。

前村さん、山崎さん、ありがとうございます。

ほかはよろしいですか。御質問等ございませんか。あと、参加されていた方で、今の GAC 関係以外で、こんなことが起こっているということで、もしこの機会に一言でも付け加えていただく方がいらっしやれば、それも結構ですけれども、いかがでしょうか。

さっき申し上げたとおり、ICANN と IGF はもう、出席者で結構中心になってしゃべっている人がかなりダブっていると思いますので、話題も共通性があるのかなと思います。

【前村】 せっかくですので、よろしいですか。

【加藤】 お願いします。

【前村】 先ほど恩賀課長のほうからもいろいろと御案内があったわけなんですけども、最近、GNSO、gTLD 政策とか、私にとっては日本 IGF のときにも御紹介をしました RIR 認定要件というやつディスカッションが始まっているというところで、ドメイン名以外にも IP アドレスのほうでも少しハイシーズンが来ているんですが、最近の傾向として、WSIS+20 とかグローバルデジタルコンパクトとか、マルチラテラルの場で議論されることを注視しているんです。

したがって、ICANN の中でガバメントエンゲージチーム、GE チームというんですけども、GE チームのアップデートというのがすごくきっちりしているというのか、これさえ見ていけばマルチラテラルの場の動きというのはカバーできるなというふうな実感ができるものになっていて、そこを中心にいわゆるインターネットガバナンスというフレーズで語られることもかなり活発に語られているという状況だと思います。それですね。この資料を見ると、これが一番まとまっているという感じの資料になりますので、レコーディングももう上がっていると思いますので、見ていただけると参考になるかもしれません。

私からは以上です。ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。そういう意味で、そこで配られている資料をうまくハイライトしていただけると非常に、この場の人々にはありがたいかもしれないですね。

【前村】 それです、それです。

【加藤】 これを見に行けばいいだけのこともかもしれませんが。

【前村】 後でメーリングリストにリンクをお送りする……。

【加藤】 ああ、そうしていただくと非常にありがたいですね。ありがとうございます。

ほかの方、いかがでしょうか。

もう早速、山崎さん、ありがとうございます。

もしなければ、引き続き恩賀課長、総務省の方への御質問があれば、この後でも結構ですけれども、一応、アジェンダ上、次に移らせていただきたいと思います。

次は、MAG からの御報告ということで、河内さん、いかがでしょうか。ちょっとタイミング的にいつもこの活発化チームの会議と MAG の会議にはずれがあって、少し先に延期になって、以前の会議の御報告になってしまうかもしれませんが、よろしくお願いします。

【河内】 前回の活発化チームで御報告した MAG の会議は第 9 回だったので、第 10 回がこの 21 日の後の……

【加藤】 前は 10 月 21 日に活発化会議をやりましたので、その直後だったんじゃないですかね、MAG が。

【河内】 MAG が 10 月 29 日にある、その報告をしたいと思います。実は、本当は先週の火曜日にも MAG の会議があるはずだったんですけど、何か急遽、その日の夜の予定が夕方に連絡が来て、ICANN で何かどうしても都合がつかないから 2 週間延ばすという連絡が来まして、なので、今日は 10 月 29 日の報告だけさせていただければと思います。

資料はこれですね。10 回目、10 月 29 日です。もう 10 月 29 日なので、この後結構いろいろ実は動いているので、ちょっとこのときと今と状況が違っていることもあるんですけど、御報告しながら話をしていきたいと思います。

まず、Adoption of agenda があって、その後、ホスト国からビザについて、やはりそのビザの申請の仕方が何かよく分からない、結構ややこしいという問合せとかが結構あるらしくて、実際にその画

面にホスト国のサイトからどういうふうに進んでいけばいいかというのの何か説明とかが行われました。やっぱり Tourism でいいのか、ビジネスじゃなくて、Tourism では駄目だと思ってビジネスを選んでしまって、そこから先に行けないという人が結構いて、Tourism を選んだ後に IGF というのが出てくるという話をしていました。

それからあと、会場のレイアウトとか、Village のブースの形状とか、メインホールについては、結構 CG を使って詳細に紹介がされていました。

それから、何かホテルが、空港からホテルもそうですが、ホテルから会場ですね、ホテルが結構会場から離れているところにある人が多いということで、オフィシャルなホテルも、一部のホテルを除いたら結構離れているところが多いので、そこはシャトルを準備することを検討中だと言っていました。

それから、事務局からの報告ですけれども、サウジアラビアとアイルランドで NRI が設立されたということで、サウジアラビアはぎりぎり間に合って設立したという感じですかね。

それから、あと、Parliamentary track に関する招待状はもうこの会議の前の週に ITU から送付されたということです。

それから、IGF でのリヤドでの MAG の会議予定が、暫定的にここに書いてある時間に行われるということが報告されました。

それからあと、MAG が企画する 4 つのメインセッションですけれども、それぞれモデレータとパネリストの調整をしているということで、それぞれのセッションの責任者よりその状況の報告が行われました。

それから LP、リーダーシップパネル、VintCerf が議長をやっているリーダーシップパネルですが、この会議の週の金曜日にミーティングを行う予定だということです。あまり詳細については話がありませんでしたが、あまり進んでいないという感じでした。

それから、Strategy ワーキングで、MAG のワーキンググループの 1 つの Strategy のワーキングで作成した Vision Document、IGF のビジョン、こうあるべきみたいなドキュメントを作っているんですが、それをリーダーシップパネルにも共有して、さらに UN セクレタリージェネラル宛てに WSIS+20 の Review Process に関するワーキンググループとしての意見をまとめたレターをドラフトしていて、これに対して MAG のメンバーからの意見をこのとき募集していました。

それから、あとは、これ、各ワーキンググループとか、Intersessional Work についての報告です。今年から設置された Youth Engagement、若者をいかに巻き込むか、若者に参加してもらおうかということをテーマにしたワーキンググループが今年からできまして、まず Mentor Program、要するに MAG でもう何年か経験のある人たちが若い人たちに対して、こんなふうな、IGF でこんなことをやっているとか、あんなことをやっているとか教えてあげるようなプログラムをやっている、これが既に行われて、これに協力した人に対して感謝の辞が、字がすいません、間違えていますね、辞がありました。この結果とかも含めて 11 月 1 日にウェビナーを行っているはずです。

それから PNAI、AI に関するポリシーネットワークは 10 月 22 日にワークショップを実施。それから、インターネットフラグメンテーションに関するポリシーネットワークは 11 月 19 日に 3 回目のウェビナーを実施する予定とのことです。明日ですね。

それからあと、その他ですけれども、この時点では来年の IGF2025 の開催場所はまだセクレタリージェネラル（国連事務総長）の許可がなくて公表できないと Chengetai は言っていましたが、先日、山崎さんから御案内が皆さんにも送られていると思いますが、ノルウェーに決まったということです。しかも開催時期は 6 月と、2025 年の 6 月にノルウェーで開催されるというのがこの後、先週ですか、発表されています。

それから、来年の MAG についてですけども、この時点ではまだやはり、もうすぐアナウンスする予定という情報だったんですが、これも先週、連絡が来まして、現在の MAG のメンバーとか、過去の MAG のメンバーが、それぞれ自分と同じセクターの人を 2 人までノミネートすることができるということで、締切りが 28 日だったかな、までに規定のフォームからノミネーションを送るということになっています。MAG の中では結構、私、これに関心があるからノミネーションしてくれないかとかいう、そういう何かメールとかが飛び交ったりとかはしています。

それから、何かこれ、リヤドの IGF ですけども、いつもは行われているレセプションとガラディナーを 1 つにして Day 0 か Day 1 にやると。要するに Music night は行わないと。けれども、その代わり何かやることを企画中だと言っていました。

ここに MAG、次回は 11 月 12 日と書いてありますが、これが 2 週間延びて 11 月 26 日の予定になっています。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。今の河内さんの御説明に御質問等ありますか。かなりアップデートされた情報もあったかと思いますが、いかがでしょうか。

MAG の改選についてもう少し詳しく、河内さん、教えていただけますか。手続が 11 月 28 日までにまず募集、自薦・他薦があって、それで MAG が決まると。今回は特別な方式で、今までのような長い時間をかけて募集をするのではなくて、至急決めるということですね。

【河内】 はい。ちょっと今メールを出しましょうか。そのほうが早いので。

【加藤】 基本的に河内さんも今年の 12 月で 3 年だと思いますが、そのほかの人も全部改選になるということなんですか、今度。

【河内】 いえ、基本的にまだ 3 年の任期が終わっていない人は、来年の 2025 年の後、2026 年以降、その残りの任期をやる予定にはなっているけれども、ただ、IGF がこの WSIS+20 で見直されて、どういう形になるかがまだ見えないので、もし今までと同じような形で MAG を継続するということであれば、その残りの期間を 2026 年以降で MAG の任務をしてもらいたいと考えているけども、そこは MAG がどういうふうになるか分からないので、もし変わったらそうならないかもしれないみたいなことが書いてあります。

【加藤】 ということは、だけど今回、人数は 40 人ぐらい選びますみたいになっているのがありましたけど、それは取りあえず今の人たちを入れ替えて、暫定 MAG が来年、WSIS+20、7 月ですか、そのときまで暫定の MAG が結成されると、こういうイメージなんでしょうか。

【河内】 そうです。来年は来年 1 年だけの MAG を結成するということになっています。どこに書いてあったかな、何か 40 人.....。

【加藤】 そういうことですよね。40 人だったですよね、全部で。

【河内】 はい。40 人のうち政府の代表者が.....。

【加藤】 16 人か何かですね。

【河内】 16 人。残り 3 セクターで 4 人ずつですよ、12 人。

【加藤】 8 人ずつで 24 人。

【河内】 18 と 12 ですかね。

【加藤】 そうですね、16 と 24 で 40 人。

【河内】 24 ですね。8 人ずつですね。

【加藤】 8 掛ける 3 プラス 16 だったと思います。

【河内】 そうですね。技術とプライベートと、それからシビルソサエティーで 8 人ずつ、3 セクターなので 8 人ずつ、24 人、プラス、ガバメントの代表が 16 人という予定だと書いてあったと思います。

【加藤】 ありがとうございます。イメージとして、これ、勝手な私の推測ですけども、今回 MAG を暫定的に決めて、2025 年 7 月に予定されている WSIS+20 の会合に向けていろいろと議論をして、その前にノルウェーの次回の会議も、6 月に WSIS+20 の前にやってしまうと。背景にある考えはそういう流れだということなんではないかな、これは。

【河内】 そうですね。WSIS+20 の 2025 年は 7 月の初めというふうに今、出ているので。

【加藤】 7 月ですよ。

【河内】 その前にやるような感じになると、予定になっていると思います。

【加藤】 そうのことですね。ありがとうございます。

皆さん、御質問等いかがでしょうか。何となく時間的な流れ……。あ、どなたか手を挙げて。

山崎さん、お願いします。

【山崎】 山崎ですけども、これは個人的な興味で、別に今すぐ返事がという、あと、皆さんで結論というわけじゃないんですけども、来年 6 月 IGF で、7 月 WSIS+20 という、かなり強引なスケジュールに付き合うとすると、来年の国内 IGF は下手したら 5 月とか、めちゃくちゃ早い時期にやらなきゃいけないで大変だなとは思ったんですけど、どこまで付き合うかはもう、我が道を行って秋にのんびりやるか、どちらがよさそうでしょうかという、ちょっと御質問でした。

【加藤】 じゃあ IGF の今後ということも含めて、後でその辺はまた問題提起していただくということで。今、多分、ここで議論とか結論はなかなか出ないと思いますが。

ほかの方、いかがでしょうか。河内さんへの御質問はございませんか。

今度、11 月 26 日直前に、まだ何かいろいろと議論したり決めることが、河内さん、あるんでしょうか。かなり前回オープンになったものも、10 月 29 日時点では発表できなかったものも発表されてきて、何となくもうサウジアラビアが近くなってきたタイミングだと思うんですけども。しかも 11

月 26 日は、先ほどの新しい MAG メンバーのノミネーションのタイミングからいっても、微妙なタイミングですね。

【河内】 そうですね。締切り直前、たしか 28 日だったと思います。

【加藤】 28 日だったと思いますね。

【河内】 締切り直前なので、何かどういうふうを選ぶのか、多分、要するにノミネーションが出てきた中からどういうふうに事務局が選ぶのかと、結構そこがみんなの関心事じゃないかなという気はするので、そこら辺の議論が結構大きくなるかなという気はします。

【加藤】 いかがですか、皆様、御質問ございませんか。

もしなければ、それでは次のアジェンダ項目に移らせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

ICANN のではなくて、次は NRI です。NRI もちょうどタイミングがいいというか悪いというか、今日の夜、夜中に NRI、次があると思いますが、これ、山崎さん、何かまず、いつものように御報告いただくことはございますか。

【山崎】 これも MAG 同様、一月遅れ近くになってしまいますけれども、前回の御報告をしますと、前回は 10 月 22 日に開催されました。私と加藤さんは出席できず、河内さんをお願いしてしまったんですけれども、まずはというか、議事内容はほぼこの NRI メインセッションのスピーカーとモデレータの最終確認ということでした。アフリカ、アジア、ラテンアメリカ・カリブ海、中東、北米はもう決まっているんですけど、ヨーロッパが 2 人並立していてということでした。

あとは、オンラインモデレータが、こっちは To be confirmed で、こっちは EuroDIG の Sandra さんということだったんですけども、オンサイトか、だったんですけども、結果として、アジア太平洋の香港の Jennifer Chung 氏が提案されて、合意されたということです。オンラインについては、これ、意見ありということは、まだ最終的に決まっていなないんだと思いますけども、提案されたという意見があったということです。

次に、NRI の Coordination session、こちらはグローバルデジタルコンパクト、GDC についてを含めるかということで意見交換して、含めることとなったということです。

次回は、これを河内さんに作っていただいた時点では 11 月初めと言っていたんですけども、それが今日になりまして、それ、もともとは 22 時からだったのが、週末.....。

【加藤】 11 時半ですよ。

【山崎】 はい。日本時間では 23 時半ということに急遽時間に変更になりました。ということで、次回会合で 11 月分の報告をしていると、IGF が終わってしまうんですよ。だから、メーリングリストで可能な限り御報告できればと思います。

私からは以上ですけど、河内さん、加藤さん、何か補足ありますか。

【加藤】 河内さん、まず。

【河内】 私からは大丈夫です。何か 1 か月ぐらい前なんです、あんまり覚えていないというのとも言えないんですけど、ここへまとめたとおりのはずなので、それで大丈夫だと思います。

【加藤】 加藤からは付け加えることはないんですけども、この時点で、このメインセッション以外の 3 つのコーディネーションのセッションですけども、メンバーがほぼ決まっていたんですが、出られるかどうかの確認をするというのが何人か、まだオープンだった時点があったと思いますが、今日の夜のアジェンダの段階でももうほぼ決まっていて、今日以降、サウジアラビアまでに何かこういう大きな変化があったとかということで御報告することは恐らくないのかなというような印象です。これは多分、3 つのセッション、どれもそうだと思います。

今ちょうど映っているページ、あれですけども、アジアからは今、Amrita、インド人で APriIGF の中心になってやっている女性です。それと、さっきもお名前が出てきた Jennifer Chung、これは DotAsia で随分活躍しているのですが、彼女なんかがやっぱり中心的にこの NRI も参加していると、そんなようなイメージが強いんじゃないかと思います。

皆さん、御質問とかございますでしょうか。

それでは、NRI の件もこれぐらいで、最後、終わりということで、もしあれば、先ほど恩賀課長からも ICANN の御報告をいただいたんですけど、その他、別の会議等で情報共有いただくようなことはございますか。その後、GDC とかは何も動きがないのと、WSIS+20 もまだ予告編も特になような気がするんですが、そういうことに限らず、何か御披露いただくような状況報告というのはございますでしょうか。大丈夫ですか。

それでは、もし何かまた思いつくことがあれば、ぜひ御披露いただくということで、次に移らせていただきます。

アジェンダに沿ってですが、大変皆さん御苦労さまでした。11 月 5、6、7、3 日間、盛況な日本 IGF の会議を開催いただきまして、ありがとうございました。これも山崎さんのほうで資料をまとめていただいているので、アンケート調査の結果とか、御披露いただければと思います。

山崎さん、よろしくお願いします。

【山崎】 それでは山崎から、もう先々週になるんですかね、日本インターネットガバナンスフォーラム 2024 について簡単に報告します。

まず、参加申込み、参加状況ですけれども、136 名申し込んで、現地が、現地という人の中には 3 日間現地だけじゃなくて、1 日だけ現地であとは遠隔で聞くという人も含みます、が 32 名です。参加者数はそれぞれ、5 日が 17 名、遠隔 59 名、6 日が現地 19 名、遠隔 58 名、7 日が現地 11 名、遠隔 46 名と、そこそこ御参加いただきました。

参加いただいた皆様、ありがとうございました。あと、もちろん登壇いただいた皆様も、大変ありがとうございました。セッションを企画いただいた皆様にははるかに、さらにお礼を申し上げたいと思います。

あとは、アンケートの集計結果なんですけれども、この辺は、グラフについては皆さんに御自身で後で見ていただきたいと思うんですけれども、結構いろんなステークホルダーにばらけています。13 件しか回答がなかったのも、ちょっと母数は少ないんですけれども、この中では、人づてに聞いたというのが一番多くて、あとは、活発化チームのメーリングリストですか、を見てという人が次いでいます。

約 3 分の 2 の方々が初めてではないということで、インターネットガバナンス関係、このチームのイベントとかだと思いますけれども、参加したことがあるということです。

理由については、インターネットガバナンスに関心があるというのが一番多かったということです。

次は飛ばします。

セッションへの興味は、結構、満遍なく分散していたかなという感じです。

プログラム全体の印象は、4 分の 3 が「役に立った・満足した」ということで、悪くないのではないかと思います。

開催形態は「悪い」というのをつけられた方もいらっしゃるって、その理由が、直接リンクしているかどうかは分からないんですけど、平日の昼間は業務のため無理だという方もいらっしゃいました。

だから、こういう方々ですと、夜や週末にしろということだと思っただけなんですけども、一方で、録画を公開、まだしていませんが、まだ現時点では参加者だけなんですけども、追ってこれを公開すれば、それで大分補えるんじゃないかなという気も個人的にはします。

60 分では短い、90 分にしたらどうかという意見もありました。

あとは、ZOOM ミーティングだと名前が見えてしまうので、ちょっとちゅうちょするという意見もありました。これは、最初はウェビナーでやっていたんですけども、そうすると登壇者間で議論がしにくいというか、手を挙げるアイコンがウェビナーのパネル操作でできないということでしたっけ、これは ZOOM がアップデートされて解消されていたんじゃないかと思いますので、次回からはウェビナーに戻してもいいのかなと思う一方、あんまりそうすると聞いているだけの方が多くなって、議論が活発にならないんじゃないかという気もして、その辺は皆さんの御意見を伺いたいと思います。

オンラインだと地方から参加できていいというのもありました。

次は、リヤドで行われる IGF への参加予定なんですけども、オンライン参加が一番多くて、その次は参加予定なしで、現地参加予定とミックスという人はちょっと少ないかなというところですよ。

一番重要なのがこの御意見だと思いますが、若者とか国際政治の方へのアウトリーチという課題をパネルのセッションで挙げていただいたのは共感したということと、外交的視点からマルチステークホルダーアプローチを捉え直すといったものに関心を持っているとか、セクターごとのグループワークをやったらどうかという御意見もありました。

あとは、パネリストが6、7人は多過ぎるんじゃないかという、これはさっきの60分ではなくて90分にしてはという意見にもつながると思うんですけど、確かにIGF本家は60分セッションと90分セッションと両方あるので、2通りにするというのもひょっとしたらありだったかもしれない、もしくはパネリスト数を絞るというようなことも考えてもいいのかもしれないです。

案内が十分でないと。特にセッション開始時刻と各日の全体の時間とがちょっとギャップがあって、要は挨拶とか案内が十分じゃなかったということなんですけど、これはおっしゃるとおりですので、改善を考えたいと思います。

申込みについての情報が見つけれないというのは、これは正直よく分からないというか、アナウンスのたびにリンクを貼っていたんですけども、Zoomの申込みで現地も兼ねていたんで、現地に参加したいと思って見つからないということだったのかもしれませんが、この文面からだけだとちょっと分からないです。

最後に、報道機関に連絡して記者の参加を働きかけてはどうかというコメントがありました。これは、実際には御参加がありまして、新聞社が少なくとも1社、テレビ局1社で、ウェブ媒体と思われる方がお一人参加なさっていました。直接取材かどうかは分からないですね。それは受付を工夫して聞くようにしたい、今後はしたいと思いますけども、かなり勉強熱心でいろいろ質問されていた方もいらっしゃいました。

私からは以上ですけども、ほかは皆さん、今日、結構、当日いらっしゃった方が御参加されているので、感想とかあればぜひ御発言いただければと思いますが。

【加藤】 山崎さん、本当にありがとうございます。皆さんのコメントをいただく前に、プログラム委員会、いつものとおりボランティアで、少数精鋭で、しかも今回非常に短期間でしたので、フルの正式の手続をなかなか取れないまま開催したにもかかわらず、実際、お名前を挙げてあれですけど、山崎さんお一人の孤軍奮闘の部分がすごくあって、各セッション、全部で11セッションがあったわけですが、セッションの方々に本当に出ますかというやり取り等、非常にこれ、手間がかかる、時間がかかることでしたが、その辺を一手に引き受けていただいて、やっていただいて、本当に山崎さんなしではできなかった会議だと思いますので、まず、ありがとうございました。本当にありがとうございました。

というところで、お出になっていただいた方々、特に幾つも登壇していただいた方を含めて、順に御感想をお願いしたいと思いますのですが、いかがでしょうか。

【立石】 すいません、立石ですが。ちょっと怒られそうなぐらい何回も出て、すみませんでした。山崎さん、本当にいろいろお世話になりまして、ありがとうございました。欲張り過ぎてとかいうか、まさか全部通ると思わなかったのが、私もちょっとへとへと感があったんですけども。

山崎さんが言及されていた ZOOM での現地も含めた参加申込み、これは多分、迷った方は結構、私も多いと思います。実は別のところでも同じことがあって、私が実は申し込めない、それが現地参加も兼ねているということを実は知らなくて申し込めなかったのが実際、私自身もあつたりとかしたので、別に分けた、ちょっと手間になるのでどうするか、来年、次回以降どうするかは考えたほうがいい、手間になる分をどう省くかということは考えたほうがいいと思うんですけど、確かにあそこと、こちらのほうに関しては、山崎さんが現地参加も兼ねますというふうに明示的には書いていただいていたので、比較的少なかったかなと思うんですけど、ぱっと見て、私みたいなおっちょこちょいは、これは現地参加は違うんだと思ってしまって探すということがあり得ると思うので、ちょっと考えたほうがいいかなと思います。

それと、時間的なものとかいろいろあったりとかして、私もうまくコーディネートできなかった部分がちょっと反省ではあるんですけど、ただ、いろんな方が、今回初参加の方も結構出ていただきましたので、次回以降、この活発化委員会も含めてそうなんですけれど、もっといろんなところにアウトリーチできるようにしなきゃいけないかなと。そういう意味では、私自身がちょっと偏りがあるので、あんまり今まで関係ないところも、のところにも、関係がないって、関係はあるんだけど出てきていただいていないところにも、何かアウトリーチする仕組みを考えなければいけないのかなと感じました。

以上です。すいません、出過ぎでした。失礼します。

【加藤】 ありがとうございます。ほかの方はいかがでしょうか。

順不同であれですが、まだおいでになるので、例えば政府から恩賀様とか宮本さん、いかがだったでしょうか。御挨拶のビデオを頂いたりとか、いろいろ御協力いただきまして、本当にありがとうございました。

【恩賀】 総務省、恩賀でございます。御指名いただきまして恐縮です。私自身は初めてこの日本インターネットガバナンスフォーラムに出させていただきますして、個人的な反省ばかりなんですけど、あまり建設的なお話が本当にできていたのかなというのはちょっと、個人的に反省しているところでございます。

議論の内容自体は非常に、先ほど立石様もおっしゃっていましたが、いろんな方々を、一緒により議論していく重要性ということは、短いながらも、1つのメッセージとしては、先ほどどなたかの感想にもございましたけども、その点は改めて皆様が同じようなことを思っていることが分かったということで、そういう意味では、政府としてできることにはいろいろと難しい面もあるテーマですけれども、そういったいろんな方々をおつなぎするということでは、我々もいろいろと貢献できる場所があるのかなと改めて思いましたので、引き続き、総務省としてもできる限りの連携・協力をさせていただければなと思った次第でございます。

ひとまず私からは以上でございます。ありがとうございます。

【加藤】 どうもありがとうございます。ほかの方、いかがでしょうか。

前村さん、いかがですか。いろいろと御支援、いつものとおり JPNIC さんから御支援いただきましたけれども、いかがでしょう。

【前村】 自分のセッションがうまくいったので、とても気持ちがいいなというのがまず最初に言いたいことですね。ああいう技術的なネタを、あと、私だけではなくて、オルトと言っても分からないですね、(JPNIC の) 大谷亘が、ユースも、めちゃくちゃ技術的なセッションを出してきましたけども、私の ICP-2 のセッションなんかも、なかなか IGF で話すことなのかといったら、そうでもないような気がするんですけども、そういうものも IGF 活動というのは、ちゃんと技術もほかのステークホルダーに議論していただく、体験していただくということがとても大事だったんじゃないのかなと思いました。

それで、それ以外にもいろんな議論がきちんとやれたんじゃないのかなと。これから日本における IGF 活動というのは、もっとこうやっていくべきだという皆さんのおっしゃり方というのは、本当にもうそのとおりだなと、そういうふうに行っていかなきゃいけないよなというのが、ユースのエンゲージメントという一大課題とともに明確にされたんじゃないのかなと思って、運営は、次こそは山崎だけではなくて、ちゃんと手数を増やしてやりたいなと思うところなんですけども、内容が卓越していたんだと思いました。

あとは、立石さんにもたくさんセッションに出てもらったんですけども、やっぱりああいうセッションをいろんな人たちがわさわさ入ってくるようになるというのが、やっぱりあるべき姿なんだろうなと思いました。これは、立石さんにあれだけのプログラムをこしらえていただいたところに、もう感謝に堪えないんですけど、それとは一方で、いろんな人たちに会うところに行きたいなと思ったんですね。そんな感じです。ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

勝手に御指名させていただくと、上村先生がおいでになっていて、久しぶりにセッションをやっていただいて、いかがだったでしょうか。

【上村】 どこかのタイミングで話題になったと思いますけど、私が出たセッションが 2 つだったんですけど、前村さんが企画されたものと合わせて 3 つを束ねたらよかったんじゃないかというような感想を持った気がします。

加藤さんがモデレーションしたセッションと前村さんのと、あと私のモデレータした最後の WSIS+20 後のインターネットガバナンスは、割と問題意識が共通しているところもあったような気がするので、3 つを 1 つにするということではなくても、3 つを 2 つにするぐらいの調整は、難しいんですけど、あってもよかったかなと思ったんですね。そうすると、先ほど話題に出た 60 分では短い問題とか、60 分のセッションに登壇者が多過ぎる問題とか、そういったところが少し解消できたので

はないかと思いました。もちろんあれはあれで有意義だったと思うんですけど、何かできることがあったかと言われたら、そんなところだと思いました。

それからもう 1 つ、これは私に、これも当日、口にはしたものの十分表現できなかったと思うことがあるんですけど、やっぱり国内のナショナルの取組のアウトプットを UN の IGF の場に何かの形でちゃんと持っていったほうがいいような気がするんですよね。事務局に対する、セクレタリアットに対する、送るということではなくて、何か日本ではこういう議論があったというのがグローバルの場に伝えられると、形式的でもいいですし、それから、それ以上に、日本のこの IGF とかいう会議に出て発言して何の役に立つんだとか、何につながるんだということを思う方もきっといらっしゃられるわけですよね。そういう方には、あなたの声が国連の場に届けられますというような流れが見えたほうが、何のために参加するのかということを問われたときに御説明しやすいのかなと思いました。それは大人だけではなくて、若者もそうで、君たちの意見が国連の会議の場に反映されるんだよというような形で伝えたほうが、やる気が出るんじゃないかと思ったりもするので。ちょっと取り留め、まとまりのないことですが、そんなことを改めて感じました。

以上です。

【加藤】 どうもありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

今回、ICANN と重なったりで、なかなか全面的に御参加いただけなかったかもしれないですが、高松さんとか、堀田さん、いかがですか。

【高松】 高松です。本当にセッションの登壇、何か空港から出ていて、音もあまり聞こえずに申し訳ない中での参加だったんですけども、あと、ほかのセッションも全然出られていなくてというところで、本当に自分がお話しさせていただいたところについて、ちょっと思ったことを述べさせていただければと思います。

私が経験豊かなパネリストの皆さんと一緒に話しさせていただいたセッションの取りまとめの前村さんが本当に大変だったんじゃないかと、GDC や WSIS に関するファクトだったんですけども、実際に話をしてみて、どの辺りの人たちが今回参加してくれているのかなみたいなのが分からなくて、結構、お話をしながら何を話そうという、頭を悩ませながら実は話していましたというので、ターゲットをどの辺りの層に設定するのかとか、セッションのゴールを何にするのか、例えばいろいろな話、意見がいろいろなパネリストの方から出たというのを聞いていただければそれでオーケーとか、そういったところが最初からきちっと設定されて、自分の中でも整理がされていたら、話しやすかったのかなと思いました。

GDC や WSIS+20 あたりの話というのは、本当に中身の話に少し引っかけてしゃべろうとすると、どうしても内容が難しくて、前提の説明をするだけでもきっと大変だろうなと思いまして、あのセッション自体、どの程度の人がついてきていたのかなというのが、個人的には気になったところです。

セッションの内容ではなくて、参加を今回してみte思ったのが、私、最後のセッションだったんですけど、入ったときに、多分前のセッションから継続して参加されている方が多かったのかなと思って、その温度感とか、それを前提にお話しされている方が結構いたのかなと思い、ついて行くのが難しかったかなというのと、確かにパネリストはちょっと多くて、あんまりたくさん話をするような感じにはならなかったのかなというのが、セッションとしては気になった点です。

これは現地にいた方への質問なんですけど、今回のイベント、割と基本オンライン参加でハイブリッド、現地での参加も可能だよぐらいなイメージかなと思っていたんですけど、結構、実際に発言されている方を見ると、現地参加の方が多かった印象でしょうかというので、もしそうであったなら、案内の仕方とか、実際の取り回しなのかもしれないんですけども、何かいい方法をもっと考えられたりする部分もあるのかなと思いました。

すいません、ばらばらしたコメントになりましたが、感想は以上です。機会をありがとうございました。

【加藤】 ありがとうございました。

堀田さんは大丈夫でしょうか、特にコメント。いつもお越しいただきながら。

【堀田】 すいません。今回はもう、時差の関係で1つも出られなくて申し訳ないです。

【加藤】 分かりました。ありがとうございました。いろいろ御支援をいただいて。

今の現地参加対オンラインでのというのは、これ、山崎さん、どう思われます？ オンラインのほうからのコメントとか御発言も期待したんですが、比較的少なかったように思ったんですが、いかがでしょうか。

【山崎】 おっしゃるとおりですね。どちらかという、現地にいらっしゃる方の質問やらコメントが多かったと思います。特に1日目、2日目ですね。3日目はちょっとおとなしかったかなという、参加者数にも表れているとおり、3日目は現地におられた方自体が少なかったです。

あ、立石さんが.....。

【加藤】 立石さんが手を挙げていらっしゃるので、立石さん。

【立石】 すいません。高松さんがおっしゃるとおりで、私もそこは気にはなっていたんですけど、セッション提案するほうからすると、全く反応がなかったらどうしようというのが実は結構あって、討論でできればいいんですけど、どうしても現地参加、それからオンラインも含めて、反応がなかったときに、後で 15 分余っていますけどみたいになるのがちょっと怖くて、そこは何とも言えません。何か毎回毎回必ず反応があれば、それこそ国連の IGF みたいな感じでやっていないんですけど、どうしてもここがしーんとなってしまうと、その間が怖くて、あんなふうな感じになってしまいましたといいますか、すいません、言い訳ですけど、そんな感じです。

【加藤】 すいません、立石さん、若干、声が途切れるので。

【立石】 途切れていましたか、すいません。

【加藤】 大丈夫です。

高松さん、よろしいですか。イメージとしては、確かに現地参加の方の発言が比較的多かったんですけども、リモートの方からのコメントの具合を見ながら、そちらを無視したわけじゃなくて、それぞれ尊重しながら、時間配分を考えて、現地で質疑の時間をつないだみたいなのところがあったのかなという気もしましたけれども。

【高松】 ありがとうございます。どういう方法かというのはぱっと出てこないんですけど、多分、初めて参加してみたいな人が遠隔でちょっとのぞくというパターンが多いんじゃないかなと思ったので、どうにかしてそういった人たちのちょっとした意見とか思いを、発言させるまで行くとレベルが高いかもしれないんですけど、引き出すような仕掛けが次回以降つくれてきたら、もっと面白くなるのかなと思いながら聞いていました。ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。

ほか、御参加の方でコメントをいただく方、いらっしゃいますか。ここにぱっと見は、私から御指名するのはこれぐらいでと思っていますが、何か御感想なり今後につながるような御提案とかはございますでしょうか。

特にないですか。実はさっき前村さんから、技術者のミーティングがあったということで、私、特に印象深かったのが、先ほどの大谷さんが司会をとというか、モデレートしていただいた、南米の方とかオランダの方とかをつないで、インターネットのセキュリティーの将来みたいなセッションをやっ

ていた、これは非常に今までにない、全ての時間、英語でやっていただいたということで、1 つチャレンジな試みではあったんですが、こういうことも日本でもやっていけば、先ほどの上村先生の、どんどん国連を含めて外部への発信もやっていくべきだということにもつながっていくのかなと思ひまして、大変貴重なことだったと思いますし、前村さんは謙遜されていますけど、これこそがインターネットガバナンスの IGF の原点みたいな議論だったと思うんです。そういう意味でも非常に私、このセッションが一番印象的なふうに思っていますので、ぜひそういう意味で、技術者の方々に積極的に今後も参加していただくようお願いしたいと思っています。

それでは、振り返りはこの程度でよろしいでしょうか。

それでは、アジェンダに沿って、本チームの今後ということで、いつも法人化の話を含めて書かせていただいていたんですが、先々週の IGF でも、最後の日のセッションで法人化の状況と今後というお話をさせていただいたんですが、法人化についてはこういう方向でやろうという定款の案は、もうほぼ出来上がっているという御報告は何度もしているとおりなんですけど、発起人の方々の間でこういう形でスタートしようというところが、まだ最終決定ではないと。私も直接というあれでもないんですけども、JPNIC さん、JAIPA さん中心に、例えば村井先生とかも入っていただいて、いろいろなスタートの形の議論をさせていただいていると理解しています。

そういう意味で、近いうちにほぼ決まっていくのかなと思っておりますので、もし今こんなことが動いているということを御報告いただくことがあれば、いただきたいと思いますけど、そうでなければ、この件、継続して進んでいるというふうに私からは申し上げたいと思いますが、いかがでしょうか。

JAIPA さん、JPNIC さんということで、立石さんや前村さんからも何かコメントがあればあれですけど、いかがでしょうか。

【立石】 立石ですけど、すいません、遅々としてというか、若干、最終調整に手間取ってはおりますけれども、近々それなりのお話ができるのではないかなと思っております。

以上です。

【加藤】 前村さんから特によろしいですか。

【前村】 今、立石さんがおっしゃったような状態だということで、私から特に付け加えることはありません。

【加藤】 ありがとうございます。それで、この議題の延長というわけでもないんですけれども、先ほどから日本 IGF の 3 日間の会議、大変盛り上がりがあったと私は思ったんですが、前々からこの活発化チームの議論の中で、活発化チームというのは単なる連絡会、今日も 1 時間以上やっているわけですけれども、この連絡会、報告会だけではなくて、もう少し実質的な勉強会といいますか、討論の場があってもいいんじゃないかという議論をしまして、先々週の日本 IGF のところでも、それを私からも提案させていただいて、特に反論もなく、皆さんそういう雰囲気が醸成されているのかなと思っております。

それで、できれば具体的に、大体 1 か月か、2 回のタイミングで、ですから、活発化会議としては、この活発化会議をやっている 2 回のうち 1 回か、3 回のうち 2 回ぐらいで、やり方として、これ、時間とか日時を、参加していただく方の調整があって、若干変更になり得るかもしれないんですけれども、今、5 時から一応 7 時までということで時間を取っていただいています。例えば活発化会議の会議を 5 時からやる場合、5 時から 6 時までをそういう、勉強会と呼ぶのがいいのか、これは皆さんからいい名前をつけていただきたいと思いますが、その会に充てて、6 時から 7 時を連絡会にすると。5 時から 6 時はもっと広く、そういう問題について意見が聞きたいという方にも参加していただく場として、6 時以降は、それが終わった後、今日お集まりのような皆さんと色々な情報交換をするという、そういう形の二段構えにしていくのかはどうかと思います。

もう少し具体的に言いますと、最初の 5 時から 6 時の部分は、毎回 1 人のスピーカー、または 2 人でも結構なんです。プラス、モデレータでも結構ですし、一緒に掛け合いをやっていただく方でも結構ですが、基本的には 1 人の方が問題を取り上げて、先ほどの大谷さんの、次の時代のインターネットのセキュリティーのプロトコルでも何でも結構ですけれども、そういうことを 30 分ぐらい話をさせていただいて、残りの 30 分、質疑応答をします。

言ってみれば、日本 IGF で 11 個もセッションがあったわけですが、そういうものをもう 1 回、それぞれリードしていただいた発言者の方にやっていただくとしたら、それだけでも 1 年間以上、案件が出てくると思うんです。前回もっとしっかり議論したかった、60 分じゃなくて 90 分やってもらいたかったというような問題についても、その中の例えばお一人の方、何人かのパネリストというよりは、1 人か 2 人ぐらいで問題提起をしていただいて議論するという、そういう形はどうかと思うんですが、いかがでしょうか。御意見いただいて、もしそういう方向で検討していいということであれば、次回もっと具体的に御提案させていただければと思いますけれども、皆さん、いかがでしょうか。

もちろんこれ、今は活発化チームですけれども、いずれ先ほどのお話のように法人化ということになれば、そういうものに引き継いでいって、法人化すればさらにそれを充実することになるかもしれ

ませんが、取りあえずこのチームでスタートしてみることをございます。皆さん、いかがでしょうか。

お願いいたします。

【堀田】 個人的には、デイトタイムジョブがあると、5時からというのがほぼ、もう今日もですけど、出られていないんです。皆さんのもちろん御都合で決めるのでいいと思うんですけど、どうなんですかね、テーマで話すのは5時から6時がいいのか、6時から7時がいいのか。どっちなのかというのは私はよく分からないんですけど、ここはどうなんですかね。

【加藤】 皆さん、いかがでしょうか。私が5時から6時と申し上げているのは、最初の30分、最初の1時間が、これ、定期時間でやったほうが、連絡会の部分は1時間で済むのかどうか分からない部分があって、お集まりいただく方に不便なのかなというので、まず5時から6時と決めていけば、6時になって、連絡会の部分はみんなもう、ドロップされる方はドロップしてもらえばいいと。その逆があるというのであれば別ですけども、その辺いかがですか。私はどちらでもあり得ると思うんですが。

それと、時間もこの時間に限定することではなくて、特に専門家としてお話しいただく方がどうしてもというのであれば、その都度、日時も含めて、月曜の夕方5時と何となく決めています、必ずしもそれに限られる必要がないのかなという気もしますが、その辺いかがでしょうか。

堀田さんの御意見は、そういうことをやってみようというところは御賛同いただくということでしょうか、まず。

【堀田】 はい。やってみましょうというのは賛成です。

【加藤】 ありがとうございます。では、その日時について、皆さん、いかがでしょうか。時間を例えば月曜日の5時からと決めるのではなくて、もっとフレキシブルにしておいてというのがいいのか。いかがでしょうか。

前村さん、お願いします。

【前村】 フィックスすると、そのタイミングは全然駄目なんだよねという方がいらっしゃるようになるのは、もうやむを得ないということでもあるんですけども、決めていると、次は第3週にしようかぐらいで決まってしまうという簡単さがあるんですよね。ただ、別にこだわる必要はないと思うので、皆さんで何か変えることに合意できるのであれば、別の時間でやったほうがいいんじゃない

いのかなとは思いますが。しばらく幾つかの時間帯を試してみて、もっといい時間帯があればというのは、何かそういうトライアルというのもあり得るのかななんて思ったりもします。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。河内さん、お願いします。

【河内】 どういう方にその勉強会のほうに出ていただくかによるんですけど、その方の御都合というのもあると思うので、いつもフィックスしてもう月曜日の夕方というふうに決めてしまうと、最初のうちは誰か見つかったとしても、そのうちなかなか見つからなくなったときに、結構そこが縛りになってしまうとあんまり意味がないので、そのときによって皆さんのある程度の御都合は聞ければ聞くということにして、フレキシブルに、夕方 5 時がいいのか、6 時がいいのかという、そこはちょっと検討の余地があるかもしれないんですけど、いつも月曜日とかではなくて、そのときによって違う曜日とかでもいいんじゃないかと私は思います。

【加藤】 ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

皆さんの御意見は、いろいろ試してみると。もう月曜日の夕方 5 時と決める必要はないという、大体そういう方向かと思いますので、皆さんのスケジュールがしやすい程度にフレキシブルに行くというイメージで、次回以降少し、その都度、御意見を伺いながら決めていくということでもよろしいでしょうか。

それと、開催の場所について、これ、いきなりですけれども、基本的にはこの前の日本 IGF のようにハイブリッドということが、今までの活発化チームは完璧にこれ、オンラインでだけやっているんですが、場合によっては現地の方もいてもいいんじゃないかという御意見もあると思うんですけども、この辺はいかがでしょうか。もしそうだとすると、例えば JPNIC さんでやっていただくのか、前回の日本 IGF のように CFIEC の会議室でやるのか。その場合は配信の設備のセットアップの問題もありますけど、この辺は皆さん、いかがでしょうか。

そうなるとロジも関係して、山崎さん、一番御意見があるかもしれないですけれども、いかがでしょうか。全てネットでリモートでやるか、場合によっては集まる人が何人かいてもいいのか、この辺はいかがでしょうか。

【立石】 すいません、立石ですが。声は大丈夫ですか。

【加藤】 聞こえています。

【立石】 私は、毎回毎回全部オンラインというよりは、たまには会うのがあっていいのかな、対面があってもいいのかなと。別に忘年会とか新年会とかいうわけじゃなくても、何かあっても、そういうのも含めてやったほうが、情報交換は深まるのかなと思います。

以上です。

【加藤】 河内さん、よろしくお願いします。

【河内】 やっぱり人、今、立石さんがおっしゃったみたいに、たまには対面で会っていろいろ話ができるのもいいと思うんですけど、やっぱり人が、この間、たかが 17 人とか 18 人とか来られるだけでも、それなりに準備が必要だったりとかもするので、基本的にはリモートにしておいて、何回かに 1 回、現地の参加も可というのを設定するとかいうのはいかがでしょうか。

【加藤】 ありがとうございます。もしリモート中心ということになる場合は、山崎さん、いつもそういう技術、技術者としていかがでしょうか。山崎さんのほうで御準備いただいてということはできますでしょうか。

【山崎】 はい。毎月やっていることですから。正直、準備をする立場としては、フルリモートが一番楽ですね。現地になると、どうしてもハイブリッドで、リモートからも参加できる必要があるので、ちょっと手間は増えますけども。JPNIC の会議室でやるのであれば、その次に楽ですね。CFIEC さんのところへ行くともうちょっと手間が増えますけど、今回、日本 IGF2024 で双方とも習熟したと思いますので、次回からはもうちょっとやりやすいとは思われます。だから、私も河内さんに賛成で、たまにやるのはいいのではないかなと。もしくは、だから登壇者によっては、この人だと特に何かインタラクティブに議論がありそうだから現地も併用でとかいうふうにすればいいんじゃないかなと思いました。

【加藤】 JPNIC さんの会議室だと、現地の聴衆があまりいなくても、少なくとも登壇者や若干の関係者が集まるお部屋は準備いただけるんでしょうか。

【山崎】 はい。ただ、CFIEC さんほど大きくないので、もうちょっと少ない人数が最大となってしまうんですけども。

【加藤】 分かりました。では、その辺も織り交ぜながら、基本はリモートでやるけれども、集まる会も何回かに 1 回はやるという、そんなイメージが皆さんよろしいでしょうかね。

ということで、何かこういうふうにやったらいいというコメントがあれば、ぜひお願いしますが、いかがですか。

ということであれば、次回開催日、この後決めますけれども、開催日までに、じゃあこういう形で、例えば1月か2月の、1月の、次回の次には間に合わないかもしれませんが、その次あたりをスタートに、何かちょっと案を考えて御提案できればと思います。この件はそれで皆さんよろしいでしょうか。何かの後でも御提案があればと思いますし、勉強会という名前がいいかどうかですが、その会の御発言者、それなりの案件、そういう御提案があればぜひお願いしたいと思います。

以前この議論をしたときに、さっきも言ったことと繰り返しになりますが、やはり技術者が入る技術的な問題も3回に1回は入れたらどうかという、そういう御意見もあったと思いますが、ぜひそういう観点からも、いろいろと違ったものを毎回議論していただけるといいと思いますので、ぜひ考え始めていただければと思いますし、御推薦があればメール等で御推薦いただければと思います。

それでは、今後の件ということで、私のほうからはこれぐらいにさせていただきますが、何か言い残したことはございますか。御質問も含めてございますでしょうか。特に大丈夫ですか、これで。

それでは、回りの活発化チームの開催日なんですけれども、ここに山崎さんに書いていただいているとおり、次回12月9日が3週間後なんですけど、ちょうど先ほどからありましたとおり、ICANNの報告会をその日、御計画だということで、多くの関係者が参加できないので、できれば翌日の12月10日の火曜日に、同じく5時からというふうにさせていただきたいと思っています。何かこの日は特に不都合だということとはございますでしょうか。

もしそれでよろしければ、さらにその次なんですけれども、そのままいくと年末の時期になるのかということなんですけど、リヤドのサウジアラビアの会議があって、そこでいろんな方が集まったりということもありますし、その報告ということで、次回、主な議論があるとしたら、新年1月6日の月曜日ならどうかという案が今、挙がっておりまして、もし御了承いただければ、1月6日の月曜日ということをお予定させていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。これも不都合とか何かございせんか。

【山崎】 次回が12月10日火曜日で.....。

【加藤】 はい。

【山崎】 それで、その次が新年1月6日ということですね。

【加藤】　　そういうことです。すいません、言い方が不明確で。12 月 10 日火曜日が次回です。その次が来年 2025 年の 1 月 6 日月曜日です。次々回ですね、それが。

ということで、よろしいでしょうか。では、一応、皆様方からは御了解いただいたということで、そういうスケジュールとさせていただきたいと思います。

ICANN 報告会でお会いできる方もあれですし、次回当会の会議でまたぜひよろしくお願いしたいと思います。そのときには、先ほどから申し上げておおり、勉強会を含めた少しこの活発化チームの活動を変更していく案についても議論していただければと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、今日も長時間にわたって大変ありがとうございました。今日はこれでお開きにさせていただきます。では、お疲れさまでした。ありがとうございました。